

歓迎挨拶

第58回全日本広告連盟静岡大会

会長 松井 純



第58回全日本広告連盟静岡大会にご出席の皆様、「ふじのくに」静岡へようこそお越しくださいました。全国各地からこのように多くの方にご参加いただき、厚く御礼申し上げるとともに、心より歓迎申し上げます。

静岡市での全広連大会の開催は、1996年以来14年ぶり2回目となります。今回はお隣の山梨広告協会にご協力いただき形で開催されます。これは、静岡・山梨両県で「富士山を世界文化遺産に!」という運動を推進しており、「富士山は日本人の心のふるさと」という気持ちで一緒に開催しようという運びとなったわけあります。

日本のほぼ中央に位置する静岡県ですが、東西155キロの太平洋沿岸には静岡、浜松の二つの政令指定都市をはじめ人口10万人以上の市がバランスよく連なり、人口は380万人を数えます。靈峰富士を仰ぎ駿河湾を抱き、その高低差は日本一の6276メートルにも及びます。また、山、川、海、湖など多彩な自然にも恵まれ、日本風土の縮図とも言えます。豊かな自然に支えられた第一次産業、東西の交通の要衝にあることで育った第二次産業、そしてサービスの第三次産業とが程よい均衡を保ち、日本有数の「もの作り県」であります。

世界的な金融危機の連鎖が起こって既に1年半が経過しました。新興国のいち早い回復を尻目に、日本は雇用不安定と個人消費の低迷が続き、とりわけ広告業界を取り巻く環境は一段と厳しさを増しています。日本の広告費の媒体別の変遷を見ますと、1975年にテレビが新聞を抜き、以降テレビが1位を続けておりますが、2004年にインターネット広告がラ

ジオを抜いてから、雑誌、新聞も抜き、今やテレビに次ぐ規模となっています。本日は民族連の廣瀬会長も会場にお越しですが、いよいよ来年7月にはテレビが完全デジタル化に移行します。

デジタル化、IT化が急速に進む中で広告手法も多様化し、既成概念を超えた新たな変化への対応が求められています。しかし、いつの世も変わらないものは、人と人をつなぐ心です。広告コミュニケーションの基本もここにあります。そこで今大会は、日本の真ん中「ふじのくに」から全国に広告の力と可能性を発信したいという思いを込め、「ココロつなぐココロ。広告の力、ふじのくにから発進。」というテーマとしました。

このテーマに沿って、記念講演では駿河の国が生んだ臨済宗中興の祖・白隱禪師の心の世界を解説していただき、午後のパネルディスカッションでは、デジタル化・IT化の進展による変化の時代に広告はどうあるべきか、各界の第一人者の方々に意見を交換していただきます。それぞれ示唆に富んだお話を聞かせていただけるものと期待しております。

さて、風香る静岡の5月といえば、新茶に初鰹、鮪にシラス、駿河湾でしか獲れない桜えび、そして静岡酵母が醸し出す銘酒の数々、そして今やブームとなっているB級グルメの静岡おでん、富士宮やきそばなど、滋味にあふれております。大会期間中、皆様には存分に味わっていただきたいと思います。

最後に、重ねて皆様方の本大会へのご参加に心から感謝申し上げて、私の歓迎の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

大会挨拶

社団法人 全日本広告連盟

理事長 佐藤 安弘



第58回全日本広告連盟静岡大会開催にあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

本日はご多忙のところ、全国各地より大勢の皆様にご参集いただき心より感謝を申し上げます。

この静岡の地で全広連大会が開催されるのは、1996年以来14年ぶりとなります。今大会に向けて万全の準備を進めて来られた静岡県広告協会、山梨広告協会、大会事務局を始め関係者の皆様のご尽力に厚く御礼申し上げます。

日本経済は、深刻な不況から、若干回復の兆しが見え始めてきているようではございますが、本格的な景気回復にはまだ時間がかかりそうな状況です。広告界におきましても、メディア環境の激変もあり、大変に厳しい状況が依然続いております。

今大会では、「ココロつなぐココロ。広告の力、ふじのくにから発進。」という大会テーマのもと、今後、広告がどのような役割を果たすべきか、全国からお越しいただいた皆様と一緒に考えてまいいる所存です。当地から、広告の新たな道筋を示すことができれば大変に喜ばしく思います。

全広連では、今年度も「広告の元気は、ニッポンの元気。」という活動目標を掲げ、各地37広告協会の会員の皆様と協力し合い、積極的に事業に取り組んでまいります。

最後になりましたが、今後とも関係各位のより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げ、また、本日ご参集の皆様のご健康、ご多幸をお祈りするとともに、各地の広告協会の益々のご発展を祈念いたしまして、挨拶といたします。ありがとうございました。



来賓祝辞

静岡県知事

川勝 平太様



本日は、第58回全広連大会がこの静岡の地で、かくも盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げますとともに、静岡県民377万6000人を代表しまして、心より歓迎申し上げます。

3776という数字はいうまでもなく富士山の標高です。静岡県の人口は本年4月現在377万6000人余りでございます。まさに、静岡県が誇る最も美しい富士山の高さの数にちなんだ人口がいると御記憶いただければ幸いです。今大会は、静岡県と山梨県の両県が協力して開催の運びとなったと伺いました。両県はいま協力して、「富士山を世界文化遺産にしよう!」という運動をおこしています。静岡県の駿河湾は水深2500mという日本で最も深い湾です。そこから仰ぐ日本一高い富士山は、昔から信仰の山として崇められてきました。

山梨県は海こそありませんが、西は南アルプス、北は八ヶ岳、東は秩父を中心とした関東の山脈が連なって、さらに南に秀峰富士山を仰ぎます。山梨県は、それらの名山に囲まれた、日本で最も美しい「中庭」ではないかと思います。その中庭にひとわ美しく聳え立つ富士山を仰ぐ山梨県と、豊かな自然に抱かれつつ秀峰を仰ぐ静岡県が一体となって全広連大会を開くのは、時宜を得たものであると存じます。

富士山はどこから見ても美しい山です。信仰の源泉となり、その美しさ故に、芸術の源泉にもなってきました。まさに富士山こそ、日本の最高の広告塔ではないかと思います。今大会のテーマは、「ココロつなぐココロ。広告の力、ふじのくにから発進。」とのことですが、人と人の間をつなぐ、その心を作り上げてきたのは富士山ではなかったでしょうか。富士山

は絶対的な存在であると信じて、常に私たちは心を託してきました。

富士山を改めて大事にするために、本県におきましては、2月23日を「富士山の日」と決めて本年を迎えました。223は富士見とも読みます。たとえば、平成20年は一年を通して2月が最も良く晴れた月でした。青空に白雪を抱いた富士山の姿は大変美しいものです。そのような富士山を大事にしようと、県民運動を展開しておりますが、今後は北海道から沖縄に至るまで、「ふるさと富士」を持っておられるみなさまにもぜひ共有していただきたいと存じます。

日本はこれまで、戦前は軍事力、戦後は経済力を中心に発展してきましたが、これからは日本的心、日本の文化力を外に発信していくかねばなりません。その根底にあるのが富士山です。これほどセンスのいい、これほど深みのある、これほど美しい存在はありません。そのような富士山の姿を心として、これからは、ココロとココロをつなぐ広告をみなさまに作っていただきたいと思います。

さて、静岡県には219の食材があります。これは日本一です。「食材の王国」あります。きょうは、その豊富な食材を地元の名人たちがすばらしい料理に仕立てます。滋味豊かな郷土料理に舌鼓を打っていただきて、食の都である「ふじのくに」の魅力をゆっくりと御堪能していただきたいと思います。

最後になりましたが、本大会の成功を心より祈念し、日本のそれぞれの地域における皆様方の御活躍をお祈り致しまして、御挨拶にかえさせていただきます。本日はおめでとうございました。

来賓祝辞

静岡市長

小嶋 善吉様



第58回全日本広告連盟静岡大会が遠来の皆様方をここ静岡市にお迎えし、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げますとともに、72万市民を代表し、心から歓迎申し上げます。

静岡市は全国の地方都市の中でも珍しく、中心市街地が空洞化をしていない地域のひとつであります。お出かけいただければおわかりだと思いますが、中心地は昼夜を問わず、非常に多くの人が歩いています。きょうは、この町の夜の賑わいをゆっくりとお楽しみいただければ幸いに存じます。

今回の大会におかれましては、日本各地より広告・マスコミ業界関係の方々が一堂に会し、記念講演会、パネルディスカッションなどを開催されますことを心からお慶び申し上げたいと思います。

最近は、ブロードバンドの普及とそれに伴うネット社会の成熟などによって、広告の社会に果たす役割と責任は計り知れないものとなっています。日本はもとより、世界の情報・広告の最先端を担う皆様がここ静岡市に集結され、議論や交流を展開されることを、大変光栄に感じますとともに、今回の大会が皆様にとりまして実り多いものとなりますことを期待して止みません。

さて、この静岡市は、地域資源・地域魅力にあふれる町であります。北部にそびえる南アルプスから南の駿河湾に至る広大な市域は、温暖な気候で豊かな自然に恵ま

れおり、1年を通じてお茶やみかん、桜えびなど、バラエティに富んだ農水産物を楽しむことができます。市内には靈峰富士を望む日本平、羽衣伝説で有名な三保の松原などの景勝地をはじめとする観光資源も大変豊富ですので、ぜひこの機会にお足をお運びいただければと思います。

さらに、静岡市は弥生時代から今川・徳川両時代を経て今日に至る長い歴史の中で培われた豊かな文化と伝統も有しております。特に大御所 徳川家康公が駿府の町に職人を集めたことに始まる家具や履物などの木工産業は、いまなお静岡市を代表する産業のひとつであります。そこから発展したプラモデル産業は、世界の田宮模型の本社も静岡市にありますが、国内はもとより世界有数の生産量を誇るまでに成長しております。

さて、本市では、今年の7月24日から来年の3月まで、静岡市の中心部で「模型の世界首都静岡ホビーフェア」を開催します。昨年東京のお台場で展示された実物大のガンダム像が静岡に移って参りまして、約8ヶ月展示させていただきます。ぜひまた静岡市にお越しいただき、発祥の地であるプラモデル産業の魅力を存分に味わって頂ければ幸いです。

結びに当たりまして、本大会のご成功とご出席の皆様方のご活躍を祈念いたしまして歓迎のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。